

長野県の特別支援学校で働いている先生方の声



ろう学校では、きこえにくさを補うために、手話を使ったり、パワーポイントで資料を提示したりして、視覚的に分かりやすい授業づくりを心掛けています。教材研究は大変ですが、子どもたちが目を輝かせて授業や課題に取り組む姿が何よりの喜びです。教師は子どもたちの笑顔や成長を間近で感じることができる素敵な仕事です。

(平成30年度採用)

子どもたちと「楽しさを共有する」ことを大切にしています。そのことで、興味関心の対象や可能性、そして支援の糸口を見つけることができます。休み時間、ともにダンスを楽しんだ後、授業にマラカス演奏を取り入れました。すると子どもたちは、集中が途切れず、終始生き生きした姿を見せてくれ、教師としてのやりがいを感じました。

(令和5年度採用)



授業に向け、教材研究だけでなく周りの先生方と考えを共有することを心がけています。そして授業後、子どもたちの反応や改善点をまた先生方と共有して次の授業に向かって…を繰り返すことで、新たな学びにつながったり、子どもへの見方が広がったりする気がします。特別支援学校はチームで動いていくことがやりがいや魅力だと感じています。

(令和3年度採用)

子どもたちの「できた！」を大切にしたい支援を心がけています。そのため、日々遊ぶ中で、好きなことや得意なことを見つけるようにしています。考えた支援が必ずしも有効とは限らないため試行錯誤の毎日ですが、できたときの嬉しそうな顔をみるとやりがいを感じ、教師になってよかったなと感じます。

(令和3年度採用)



子どもたちが「今何を考えているか」「どうしてこのような行動をとったのか」を常に考えるようにしています。昨日の支援が今日子どもたちに通じないことがほとんどで、悩むこともあります。子どもたちと思いが通じた時はこの上なく嬉しく感じ、感動します。子どもたちの成長を保護者の方々と喜び合えることも特別支援学校教諭の魅力だと思います。

(平成31年度採用)